

起因

瑞浪恵那道路の開通を好機と捉え、「まちづくりの核」として地域課題の解消・地域活性化の役割を担い、さらには瑞浪市の新たな玄関口となる道の駅の整備が計画されている。計画地は県道65号線との平面交差点ができる釜戸町上平地区となる。

これまでに投入されているお金

年度	内容	予算 / 決算額
H29	道の駅整備に係る基本構想の検討（アンケート調査など）	1,130.4 万円
H30	道の駅整備に係る基本構想の検討（市民ワークショップの開催など）	899.7 万円
R1	基本構想の策定	1,954.3 万円
R2	基本計画の検討、計画地の河川氾濫解析	79.7 万円

どんな道の駅になるの？

令和元年度に策定された「瑞浪市道の駅基本構想」では、道の駅の基本方針とコンセプトを以下のように設定している。また、メインターゲットと担う役割については下の考えを基に道の駅検討委員会にて検討されている。

基本方針

- ①未来のまちづくりに向けた「釜戸地区の暮らしの拠点」の一翼を担う道の駅
- ②集客力を高める「立ち寄り目的となる道の駅」
- ③柔軟に仕掛けが更新できる「地域主体の道の駅」

コンセプト

“まちとともに育つ道の駅”

メインターゲット

- ・施設を利用する瑞浪市民や釜戸町の住民
- ・瑞浪恵那道路を利用する道路利用者

道の駅が担う役割

- ・日常の買い物や交通利便性の確保
- ・災害時の安全性の確保
- ・多様な楽しみ方の創出（暮らしの質を高める）
- ・既存資源の活用
- ・釜戸地区の個性の発揮
- ・釜戸地区住民と来訪者の交流促進



今年度の動き

道の駅の導入機能や周辺の関連道路整備方針などをまとめた基本計画を策定する予定で、地域の住民意見のとりまとめや導入機能のアイデアを試行する地域組織の活動に対して、岐阜大学との域学連携による支援が行われる。

今年度使うお金

<予算額>

1,884.7万円

<財源の内訳>

国庫支出金	850万円
市債	760万円
一般財源	274.7万円

実施体制

<行政組織>

都市計画課、
瑞浪市道の駅検討委員会

<住民組織>

かまど道の駅検討会、
かまどベース

<協力組織>

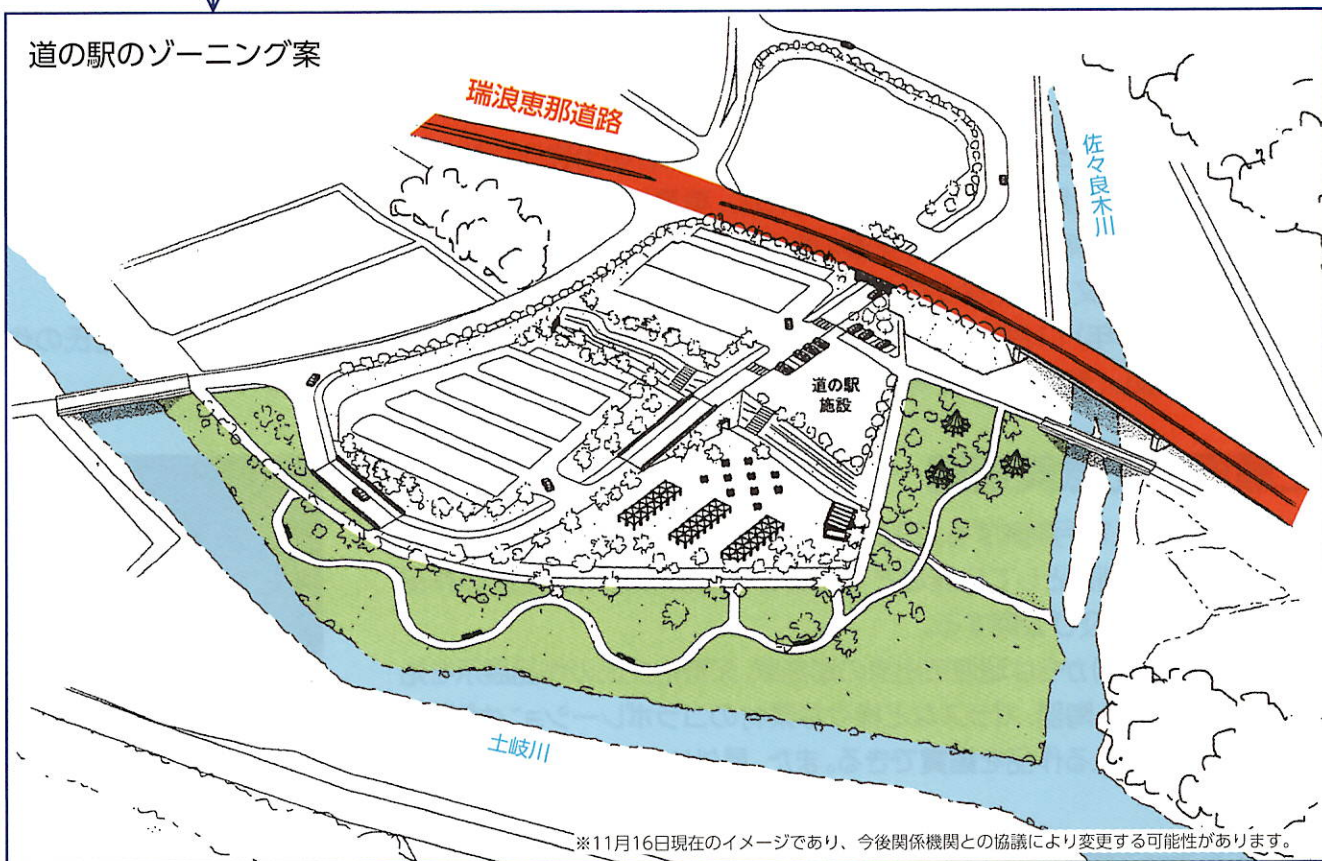
岐阜大学

どこにできるの？

瑞浪恵那道路の
開通予定コース



道の駅のゾーニング案



※道の駅に導入される機能や配置、アクセス方法については、瑞浪市道の駅検討委員会や関係機関との協議により固められていき、今年度策定予定の基本計画の中で明らかになる見込み。

今後の流れ

現在、恵那市も武並町に道の駅を建設する意向を国に伝えており、国からは両市で歩調を揃えることを求められている。国を含めた協議を踏まえ、道の駅に導入する機能が固められて行く予定である。

